

# 大和王朝の飛鳥・奈良・京都の地勢をみます

## —（その1）飛鳥・奈良・吉野—

大和王朝は大和王権ともいい、現在の天皇家の古代の名称です。この古代の大和王朝は卑弥呼の邪馬台国のことか、邪馬台国のことであっても卑弥呼が祖先でなく別の豪族であったのではないか、はたまた大和王朝は神武天皇の九州からの東征で起こった王朝である（古事記・日本書紀）のか。そして邪馬台国は元々どこにあったのかとの論議とあわせて諸説紛々であります。

しかし5世紀あたりから大和（奈良盆地の南部のヤマト地方、現在の明日香村や橿原市<sup>かしはらし</sup>あたり）の地に拠点をもった日本を統治する豪族があり、首長を大王（おうきみ）と呼んでいたことは、中国の宋書の倭国伝からも分かります。そして日本（自分）のことを“やまと”と呼び「大倭」・「大和」と書き表していました。

今回は、この大和王朝が拠点（都・京・首都）をもった奈良盆地の飛鳥（<sup>あすか</sup>大和より狭い範囲で奈良盆地の最南端）から藤原京（飛鳥の北側）、平城京（奈良の都）、そして京都盆地の長岡京（京都の南西側）と平安京（京都）までの地勢について考えて見たいと思います。

ついで奈良盆地の南端の飛鳥から南へ一山超えた所にある吉野とその先の大峰山道、熊野についてもふれたいと思います。

大和王朝の拠点は奈良盆地から京都盆地に変えます。一時期隣接地域の河内（大阪府）、難波（大阪府）や近江（滋賀県）に拠点をもったこともありますが、概ね奈良盆地から京都盆地に複数の拠点をもちました。

ここで言う拠点とは天皇が首都（京）造成し、天皇の住まい（宮・内裏<sup>だいり</sup>）や官庁（大内裏<sup>だいだいり</sup>）を構築して執政を行う所です。

大和王朝は何故奈良盆地と京都盆地に首都を置いたか、何故ここでなければならなかったのかを考える基を山川と盆地の地勢から見てみたいと思います。

別紙にこの地方の略図「奈良盆地と京都盆地」を掲げますのでご参考に願います。

(1) 奈良盆地の地勢。

奈良盆地（大和盆地）は大和国（奈良県）の北半分であり、奈良県は紀伊半島の中央部に位置します。東西と南側は山に囲まれ、海に面する所はありません。北側は平城山（奈良山）と山言いますが実際は京都盆地に続く台地です。

奈良盆地は盆地南部の飛鳥（現在の明日香村、標高119～87M）から北部の平城京（現在の奈良市、標高70M）の間で、直線距離で約28KM。平城京の北は直ぐに平城山（奈良山、標高100M）となりますが、平城京との標高差は30M位で山と云うより台地でこれが京都盆地になって行くのです。

盆地の西側は南から金剛山（標高1126M）、葛城山（標高959M）、生駒山（標高642M）の山並みがつながり、山並みの裏の西側は河内国（<sup>かわちのくに</sup>大阪府）と摂津国の難波（大阪府）の平野が開けます。

東側は高見山地（1400M）から笠置山地（290M）の山並みにつながり、盆地の東西の幅は10KM位で山並みの東側は伊勢国（三重県）となります。

要するに奈良盆地は南北約28KM、東西10KM位の盆地です。

南から主要な地名は、飛鳥（飛鳥浄御原宮等古代の天皇の宮（住まい）最も多くあった所）、大和三山（畝傍山、香具山、耳成山）、藤原京（大和三山に囲まれた地域）、飛鳥の南端から藤原京の北端まで約4KMです。

大和三山は飛鳥藤原京の中ほどにあります、山と云うより盆地内のこぶのような存在です。

そして藤原京の東北の盆地内に大神神社（<sup>おおみわじんじや</sup>三輪山の麓にあり、地元神として最高に崇められた）があります。

次に飛鳥から北北西に向かって17KMの位置に法隆寺の斑鳩（<sup>いかるが</sup>標高40M）があります。ここまでが平城京に都を移す前の大和朝廷の拠点（首都）でありました。（平城京遷都は910年（和同3年））

この奈良盆地は南端の飛鳥（標高119M）から北北西17KM、北の平城京（標高70M）から南南西11KMの位置にある地点が“斑鳩”で標高40Mで奈良盆地で最も低い地点です。

盆地の川は全てここ斑鳩に集まり大和川となって、葛城山と生駒山の間を西に流れ、河内（大阪府）に至って、そこで北流して難波津で淀川（山城国（京都府）から流れて来る）と合流して大阪湾に流れ込みます。

（現在の和歌山県大和川は江戸時代に人工的に流れを変え、北へ向かわずそのまま西の堺（難波の南）へ向かいそこから大阪湾に流れます）

大和川自体は、奈良盆地の東側の山並みから（初瀬川）流れ出しますが、南から飛鳥川や葛城川等、北からは竜田川や佐保川等が大和川に合流します。

瀬戸内海からの物資は難波津から舟で大和川を遡って斑鳩あたり（大和川と他の川との合流地点）で荷をおろし、そこから飛鳥には陸路で運ばれました。

斑鳩は法隆寺のある場所であり聖徳太子の宮（住まい）があった所として有名ですが、古代飛鳥時代は難波津からの水運の荷下港として重要な所でした。飛鳥の都の外港の地の役割をもっていました。（桜井の西の海柘榴位置（つばいち）が水運の終点とも言われています）

政治家である聖徳太子は水運の重要な拠点であるが故に法隆寺（聖徳太子邸）を建てたのです。

元明天皇の710年（和同3年）に飛鳥の藤原京から奈良盆地の北端の奈良に都を移します。平城京です。

何故移したのか。①藤原京が手狭になった。②藤原京は北が南より低く、天子が南面するとき、臣下より低い位置に立つ事になる。④疫病の流行への施策等後世諸説紛々ですが、現在は、「天皇家と藤原氏が飛鳥地方の豪族を政権から切り離すために奈良に遷都した」と説が有力です。

## （2）吉野、大峰山道方面

奈良盆地は大和国（奈良県）の北半分です。

後の南半分は山間部です。飛鳥の南端の島庄（明日香市）は標高120M位で、ここより山並みが続きます。高い山で標高590M位の高取山です。

この山並みを越えた所で、吉野との谷合いの狭間（標高150M）が開けます。この谷合を流れる吉野川を越えた所で又急に山となり、山の中腹の細長い台地（標高300M位）に金峯山寺や、南朝の後醍醐天皇の吉野行宮（あんぐう）があります。又ここが豊臣秀吉の花見で有名な吉野山（金峰山）です。飛鳥より直線距離で9KMです。吉野山の頂上は標高750Mあります。

吉野山よりは1000Mを超える山々が続く大峰山脈に続きます。中には

1800Mクラスもあります。そして飛鳥から直線距離で70KM、歩行距離で98KMで、熊野神社本宮（紀伊国一和歌山県）（標高1122M）に到達します。熊野本宮は、紀伊半島の最南端の太平洋に面する田辺（紀伊国一和歌山県）より直線距離で22KM、歩行距離で30KMの山中にあります。

熊野本宮より熊野川に沿って東南の方向、直線距離で14KM、歩行距離で20KMの所に、熊野灘の近くに新宮があります。（紀伊半島の東側）

飛鳥から新宮まで直線距離で84KM、歩行距離で118KMです。

吉野から熊野に至る道は大峰道と言われ、古代より修験者が通う険しい道で、熊野へ通ずる他の山道である<sup>おおへじ</sup>大辺路、<sup>なかへじ</sup>中辺路、<sup>こへじ</sup>小辺路に比べ最も難度が高い険しい山道です。

熊野詣で有名な後白河法皇もこの険しいルートは通らずに、紀伊半島の西側を回り南端の田辺を経由して熊野に至る中辺路のルートを使用しました。

尚、熊野三山のもう一つ那智神社は新宮より南の地にあります。

さて熊野、新宮、飛鳥との間の地勢を述べたのは、古事記、日本書紀における神武天皇の東征、即ち飛鳥征圧の物語です。神武天皇は最初浪速（難波）から上陸して飛鳥に進軍しようとして敗退します。そこで紀伊半島の西側を南下して、熊野に上陸して飛鳥をめざします。この熊野の場所はつきりしないのですが、現在の新宮あたりと言われています（紀伊半島を東に回って熊野灘に面している津）。

神武天皇は途中八咫鳥の助けもあって険しい大峰道を北進して、飛鳥に攻め入り飛鳥（大和）を征服します。地元の豪族はまさか険しい大峰山道を来るとは思わず油断していたのですね。

ただこれは神話ですので、大和王朝は実際にこのルートで攻め入って飛鳥で大和に王朝を樹立したと考えられていません。もともとこの地の豪族の一つが大和王朝になったと考える学者が多いようです。

しかしこのルートは時の政権に反抗して飛鳥・奈良・京から一旦退却又は逃げる人（集団）にとっては追っ手を防げる絶好のルートだったのです。

退却する人は先ず飛鳥から一山超えて、大峰道の入り口の山である吉野山の中腹に陣地（居）を構えます。そして大峰山道で逃げるルートを確保して、時の政権へ対抗する又は旗をあげる機会を待つ所でした。

壬申の乱で勝利した大海人皇子（天武天皇）は当初は吉野に退去して大友皇子の勢力から逃げていました。攻められた時には吉野奥の大峰山道から南へ逃

げるつもりだったのです。実際は逃げずに旗揚げして攻撃に出ます。吉野から伊勢へ出て不破の関で尾張や美濃の徴兵軍をもって大友皇子を瀬田(琵琶湖の南端)で討ちました。

源義経は吉野に隠れていましたが、頼朝側に発見され、大峰山道から紀伊半島南端の田辺へ逃げました。頼朝側は追いつくことが出来ませんでした。険しい山道に兵を送り込むことは困難です。そして義経は田辺から海路や陸路で越前の愛発の関(あらちのせき)から北陸道を奥羽に逃げ戻りました。

南朝の後醍醐天皇も大峰山道をバックに逃げる道を確保して吉野を拠点としました。

吉野の中腹の地は吉野盆地より急峻で一挙に150M位高くなりますので防備が出来る拠点となり、バックの大峰山道は逃げる山道としては絶好です。

奈良盆地(飛鳥)から南へ一山超えて狭間の先にある吉野山と、吉野の先の険しい修験者の道の大峰山道、そして熊野、田辺への地勢について、時の権力者との関係で述べました。

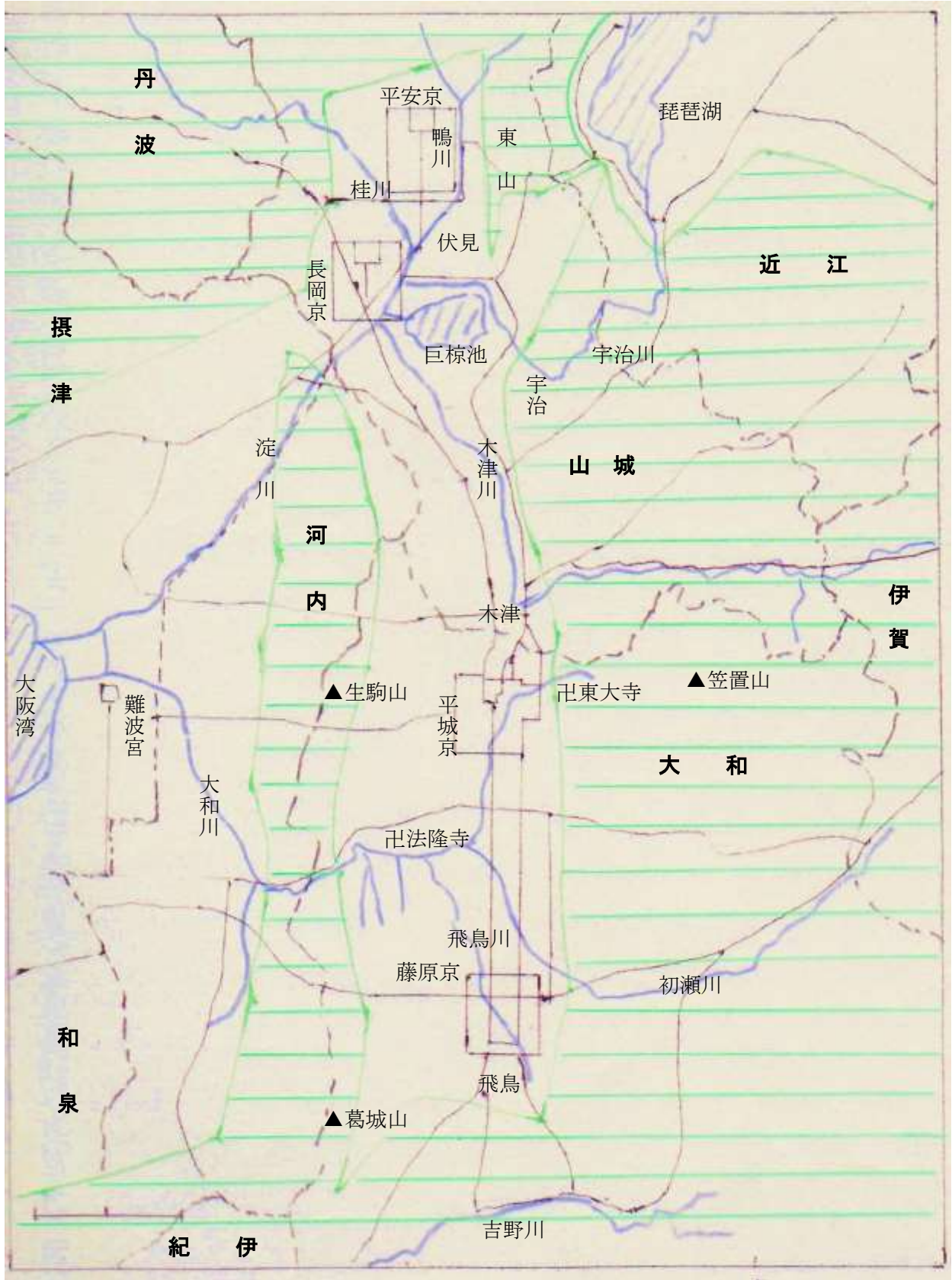
京都盆地の地勢については一(その2)京都一で語ります

つづく

2014年8月4日

梅 一声

## 奈良盆地と京都盆地の地勢



紫線：道路    緑線：山岳部    青線：河川・湖・海    点線：国境